

さまざまな人が支え合う
お互い様の地域づくり
事例集

令和元年度

この事例集について

この事例集は、「さまざまな人が支え合うお互い様の地域づくり推進事業」の一環として作成したものです。滋賀県内の各地域で取り組まれている助け合い活動のきっかけや実現までの経緯、継続するノウハウなどについて、地域でこれから取組を始めようとする方へのモデルになるような視点で分野別に事例をご紹介します。

※「さまざまな人が支え合うお互い様の地域づくり推進事業」は、滋賀県と認定特定非営利活動法人街かどケア滋賀ネットとワーカーズコープ・センター事業団関西事業本部との協働により実施しているものです。

掲載の事例について

この事例集で紹介している事例は令和元年（平成31年）度に各団体へお尋ねし、ご回答いただいたものです。

活動の内容や拠点、連絡先などは変更になる可能性がありますのでご了承ください。

事例ページの見方

同一の拠点・団体にて複数の支援を行っている事例が多いことから、事例ページの左上には活動の内容を簡単にアイコンで表記しました。

活動の概要と活動拠点の所在地を左上のアイコンで簡単に表示しています。

拠点や活動の様子を写真で掲載しています。

団体の基本情報と活動内容、実現までの経緯などを紹介しています。

利用者・活動者の声、継続のためのノウハウなどを掲載しています。

The screenshot shows a webpage for 'ほばうたごえサロン' (Hobauta Goe Salon). The page is divided into several sections:

- Activity Summary and Location:** Located at the top left, it includes a photo of the activity and a small icon representing the activity type.
- Activity Details:** A central section with text describing the activity, including the name 'ほばうたごえサロン', the organizer 'NPO法人NPOほぼハウス', and contact information.
- Activity Photos:** A section on the right side of the page showing photos of people participating in the activity.
- Basic Information and Content:** A section below the activity details, including a description of the activity, the history of the organization, and a quote from a user.
- User and Activity Voice:** A section at the bottom of the page, featuring a quote from a user and a section for '継続のためのノウハウ' (How to continue).

Callout boxes with yellow dashed borders and arrows point to these sections, explaining their purpose:

- Activity Summary and Location: 活動の概要と活動拠点の所在地を左上のアイコンで簡単に表示しています。
- Activity Photos: 拠点や活動の様子を写真で掲載しています。
- Basic Information and Content: 団体の基本情報と活動内容、実現までの経緯などを紹介しています。
- User and Activity Voice: 利用者・活動者の声、継続のためのノウハウなどを掲載しています。

活動事例 索引

居場所・カフェなどの活動や、生活の支援を行っている事例が多いことから、この事例集では大きく「居場所など」「生活支援など」「多文化共生」「活動助成」の順に、市町ごとにまとめて掲載しています。同一の拠点・団体にて複数の支援を行っている事例については、下記アイコンで表示しています。

活動内容 アイコン	居場所	生活支援	外出支援	子ども食堂	子ども居場所
	子育て支援	共生社会	多文化共生	エコ活動	活動助成

◎ 居場所・カフェなどの活動を実施している事例 ◎

●彦根市		
・NPOぼぼハウス	居場所	P.8
～ぼぼうたごえサロン～		
・あったかルーム	居場所	
～あったかルームで「イキイキしたい」～		P.9
●守山市		
・駅前子ども食堂バーバのうどん	居場所	子ども食堂
～子どもの笑顔はバーバが守る～		P.10
・回想法ボランティアいきいき	居場所	
～参加者が昔懐かしい話で主役になれる～		P.11
●栗東市		
・サロン・ドゥ・西浦	居場所	P.12
～気張らず皆仲良く（軽食を媒体としたおしゃべりの場）～		
●甲賀市		
・地域で創る夢の学習	居場所	共生社会
～社会教育の無償化を推進して4年、甲賀市夢の学習事業～		P.13
●野洲市		
・野田いきいき筋トレ九楽歩	居場所	P.14
～体操グループから地域の見守りへ～		
・サロン ニコニコ会	居場所	P.15
～いきいき百歳体操から発展したサロン活動～		

活動事例 索引

◎ 居場所・カフェなどの活動を実施している事例 ◎

● 湖南省			
・ 下田学区まちづくり協議会	居場所	子育て支援	P.16
～「ちょこっとカフェ」 & 「子育てサロン」の取り組み～			
・ こすもすクラブ	居場所		P.17
～こすもすクラブの活動～			
● 高島市			
・ 今津地区「より処」	居場所		P.18
～みんながつながって支え合うカフェ～			
・ むつみ会	居場所		P.19
～朽木にあるカフェ（丸八百貨店）～			
● 米原市			
・ NPO法人Take-Liaison	居場所	子ども食堂	子ども居場所
P.20			
～子どもとおとなのつながりづくり（居場所づくり）～			
● 日野町			
・ しあわせカフェ	居場所		P.21
～参加者主体のサロン活動～			
・ 東桜谷おしゃべり会	居場所	外出支援	P.22
～住民主体の支え合い活動（移動支援・居場所支援）～			
・ ゆかいな寺子屋	居場所		P.23
～住民主体のサロン活動～			
● 竜王町			
・ 居酒屋おいで	居場所		P.24
～笑顔とふれあいが循環するにしか環（わ）いいとも～			

活動事例 索引

◎ 居場所・カフェなどの活動を実施している例 ◎

●甲良町

・正楽寺「カフェR」

居場所

P.25

～世代を超えて交流できる地域づくりの拠点～

◎ 生活支援・外出支援などの活動を実施している事例 ◎

●湖南省

・水戸学区まちづくり協議会

生活支援

P.27

～お互いさまのまちづくり～

●東近江市

・生活支援サポーター絆

生活支援

P.28

～「助けて！」と言える永源寺を目指して…“すきまを埋める” 助け合い活動～

・たすけあい中野

生活支援

P.29

～なかのよいまち 暮らしを支えるお手伝い～

・ちょこっとサポートのとがわ

生活支援

P.30

～暮らしの困りごとに“ちょこっと” 安心をお届けしたい～

・ちょこっとサポートみその

生活支援

P.31

～御園地区“ちょこっと” 暮らしのお手伝い～

●米原市

・ひだまり

外出支援

P.32

～閉じこもりがちな高齢者をスーパーへ送迎～

活動事例 索引

◎ 多文化共生・エコ活動などの活動を実施している事例 ◎

●東近江市

・おうみサンバ

多文化共生

P.34

～サンバ音楽を用いたワークショップ～

・加楽

多文化共生

エコ活動

P.35

～古紙回収を通じた多文化共生の取り組み～

◎ 活動助成を実施している事例 ◎

●守山市

・おたがいさんネットワーク

活動助成

P.37

～住みよいまち守山を目指して～

居場所・カフェなどの活動 を実施している事例

■活動内容

毎月2回開催している「ぽぽうたごえサロン！！」
 まず、歌に合わせて身振り手ぶりの全身の準備運動！！
 叙情歌やかつての「うたごえ喫茶」の要素をプラスして、歌集を片手に
 一同 大合唱！！大声出して気分爽快！
 時には、参加者の中の自称:ギターリストの方が演奏したり、
 ついつい踊り出す方がいたり、和やかなサロンです。

参加自由！！参加無料！！！！



■団体名 NPO法人NPOぽぽハウス

■参加者 高齢者の方ならどなたでも！

■活動拠点
連絡先 彦根市平田町107-11
 特定非営利活動法人 NPOぽぽハウス
 TEL:0749-27-9777 FAX:0749-27-9888
 mail:popohouse@nifty.com

■活動のきっかけ・実現までの経緯

「ぽぽうたごえサロン」のはじまりは、平成18年から10年間、指定管理者として、彦根市北老人福祉センターの管理運営に携わっていた頃に耳にしていた、「日頃声を出すことが少なくなった」「カラオケで一人で歌うのではなく、かつての『歌声喫茶』が懐かしい！！」という高齢者の皆さんの声がかっけです。高齢者の方の楽しみの機会として、高齢者の方々自身が会場準備や歌集づくりに関わってくださっています。10年間継続してまいりましたが、場所を替えても今なお継続するサロン事業になっています。



利用者さんの声

「毎回楽しみにしている。」
 「自分ではめったに歌わないような歌もあるが、声を出すのは発散できて楽しい。」

「歌を通して、ここで出会う人ができた。」
 「思いっきり声尾を出しても、皆さんの声に紛れるので恥ずかしくない。ストレス発散になる。」

活動者の声

自称ギターリスト「ギターは好きだが、なかなか人の前で伴奏や弾くことがないので、自分もこのサロンの日が目標になり練習するようになった。皆さんにどう楽しんでもらおうかと考えながら、参加される方を思い浮かべながら構成するのも大変ですが、楽しみです。」
 「デイサービスを利用されている方、元気な高齢者の方、垣根のない場所になっています。」

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

参加の多少でなく継続することで口コミで広がっています。毎月の法人の広報紙にも載せていますが、それより口コミの方が効果があります。近隣の方はもとより、車に相乗りでおこしになる方もおられます。

■活動内容

対象は、要介護であってもなくてもいつまでも「イキイキしたい！輝きたい！」65歳以上のシニアの方ならどなたでもご参加いただけます！！毎週金曜日に開催しています。
あったかルームは、人と人・地球をつなぐ暖かく心地の良い場所です。皆さんの意見で活動を決めています。



■団体名

あったかルーム

■参加者

65歳以上シニア

■活動拠点
連絡先

彦根市平田町107-11
ぼぼハウス交流プレイルーム他
TEL:0740-21-0664 FAX:0749-21-0665



■活動のきっかけ・実現までの経緯

従来から高齢者の方が集まれる機会を提供してきました。その中で「自分たちがしたいことができる場所があるといいな」という声を聴き、ぼぼハウスのボランティアさんの協力の元で開催しています。



利用者さんの声

皆で活動を相談しながら「酒蔵へ見学に行きたい」「ランチを食べに行きたい」「趣味を広げるのにいろいろ習ってみたい」で、ビーズアクセサリやバルーンアートを教してもらったり…等の活動が実現されています。

活動者の声

いろいろ毎回それぞれの意見が生かされた活動をしています。上手下手に関係なく、ワイワイ言いながら創作したり、今どきのランチを食べに行ったり…。また、参加者で来ていた方がお昼づくりのボランティアさんになって提供側になってくださったりしています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

「どうせいけない」「する機会もない」ということが実現できるということを大切にしたいと考えています。有料ですが、必要な方へは送迎を提供していることも、「少々のことでは休まない」場所になっていると思います。

子どもの笑顔はバーバが守る

居場所
子ども食堂

守山市

■活動内容

●駅前子ども食堂

(食育)発育に十分な栄養が得られにくい、嗜好に偏りがある、食に対して楽しいイメージをもちにくい…といった子どもたちに、美しさと楽しさを伝えます。(共働)食材の調達から調理技法の伝達、協力による片付けまで参加するなど、共働による場面演出を工夫しています。また、高齢者を始めとした誰もが企画・運営の一翼を担います。

実施日：毎月第1、第3日曜日11:00～13:00

会場：「バーバのうどん」

参加費：子ども 100円・大人200～300円

第3日曜日は英語子ども食堂を実施(立命館守山高校グローバルクラスの生徒さんによる英語子ども食堂)



■団体名

一般社団法人おたがいさん(バーバのうどん)

■参加者

スタッフ 男性7名、女性7名

■活動拠点 連絡先

守山市梅田町2-1セルバ116号室
乗光秀明
TEL:090-8824-0011



■活動のきっかけ・実現までの経緯

駅前にリーズナブル価格で食事を提供する店をつくり、まちの活性化に役立ちたいとの思いから、2018年7月に「バーバのうどん・G3Bar(ジーサンバル)」をオープンさせました。店が次第に軌道にのっていき、休業日の週末も活用した地域への貢献を考える中で、「子ども食堂」の構想が出てきました。

参加は自由で、守山近隣の親子とひとり暮らしの高齢者が楽しく交流できることを大切に、子どもたちと高齢者が一緒に食事をつくって楽しんでます。お客様扱いせずに参加体験型の場にする事で、食育、そして礼儀を学ぶことも狙いにしてます。(参加は無料ですが、食事代は100円・大人200～300円食材等実費負担)



利用者さんの声

・自分達でうどんを作った小学生
「うどんの作り方は知らなかったけど、おばあちゃん
が優しく教えてくれて格別においしい」

活動者の声

嫌いなものでも自分で作ったら食べられることもあ
る。子どもは元気で笑顔が一番、今後もギョーザなど
さまざまなメニューで開催したい。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

今の子どもたちは、土日でも塾などで一人で食事をする事も多いと聞き、子どもたちに食事の場所を提供したいと思いました。市内の65歳以上が集まり、まちづくりに貢献しようとした団体「おたがいさん」が運営しています。おいしいご飯が食べれて、英語も学べる、充実した楽しい休日を過ごしませんか。



■活動内容

- ・自治会、老人クラブなどのサロンへの出前講座 60分
- ・あまが池回想サロン 90分
プログラム ①回想法 ②100歳体操 ③懐かしい歌の合唱
開催場所 あまが池プラザ2F
開催日時 毎月第2・第4火曜日 13:30～15:00
参加費 1回 200円
- ・守山市立小学校3年生社会科「昔の暮らし」体験学習支援

■団体名

回想法ボランティアいきいき
代表 下田 義春

■参加者

会員27名

■活動拠点
連絡先

守山市下之郷3-2-5（すこやかセンター2F）
社会福祉法人 守山市社会福祉協議会
TEL：077-583-2923



■活動のきっかけ・実現までの経緯

高齢者認知症の介護予防として、平成20年、回想法実践先進地の現北名古屋
市師勝町で基礎、専門講座を受講して、平成21年に立上げました。



利用者さんの声

- ・小グループで話せて、とても気持ちよく楽しかった、心と頭の元気につながった。
- ・近所の人と初めて自己紹介で故郷を知り、親しみが生まれた。
- ・お手玉を触った時、一緒に遊んだ友達の顔と名前がスラスラ出てきた。今どうしてんねんやろか〜。
- ・弁当箱を持っていたら、あの頃苦しい生活だったのに、懐かしく心地よく思い出された。
- ・あのお婆さんいつも話さないのに、昔の農作業の話では、生き生きとした笑顔で手ぶり豊かな表情で…。
- ・小グループで懐かしい話で盛り上がり、楽しかったので、また参加したい。

活動者の声

昔の懐かしい生活道具を使って、子どもころの体験や、思い出を楽しく話し合うと、脳の血流が活性化します。生き生きした自分を取り戻すことにより、認知症、うつ病や閉じこもり防止の効果が期待できます。
現在27名のボランティアが自治会サロンなどで活動しています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

100歳時代到来に向け、高齢者が高齢者を共に助け合う役割を、元気で生きがいのある地域社会づくりにつなげていきたいです。

栗東市



■活動内容

- 活動日・日時 毎週月曜日 10:00～15:00 お昼には軽食、喫茶
うどん・そば 200円
おにぎり・サラダ 50円
コーヒー・紅茶 100円
- 活動場所 西浦自治会館
- 活動メンバー ボランティア 7名（女性）
- 活動目的 食を媒体として地域の情報が集まる場づくり
- 活動内容 地域の皆さんが気楽に立ち寄られ、普段から顔を合わせて
回りごとなどの情報を共有しています。

■団体名	サロン・ドゥ・西浦
■参加者	地域住民・近隣の方々
■活動拠点 連絡先	栗東市西浦8丁目 西浦自治会館 サロン・ドゥ・西浦 代表者 吉仲幸子 TEL:077-552-4750

■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成14年に設立し18年目になります。活動は地元の自治会館です。
西浦は現在120世帯が住む、栗東市で一番古い団地です。その当時若い世代が各地から入って来ましたが、今は高齢化しています。自治会館を役員会だけに使うのはもったいないと思い、当時人形劇をやっていたメンバーに声をかけ、「ボランティアで何かしたい」との思いで立ち上げました。
自治会の事業として喫茶をメインに、食を媒体として、地域の人誰もが来られる場を1年がかりで作りました。近隣の自治会からも来られます。赤ちゃんづれのお母さんたち、野球談議のおじさんたちなど、「おしゃべり」の場となっています。



利用者さんの声

- ・毎週月曜日にここに来ていますが、にぎやかでとても好きで通っています。
- ・知り合いと会えるのが楽しみです。
- ・西浦には住んでいないので、遠慮しながら月1～2回来ています。
- ・地域の集い情報の場になっていて、来られない人の安否を確認することも出来ます。
- ・話をするので、認知症にならないと思っています。

活動者の声

- ・活動が私の憩いの場になっています。
- ・皆さん姑世代なので、楽しく厳しく育ててもらっています。
- ・デイサービスに週2日行っていますが、月曜日はここで活動出来るのが楽しみです。
- ・家では介護や、孫の世話をしながら、月曜日はここで楽しくやらせていただいています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

市や社協の協力をいただきながら、自治会の事業として活動を実施しています。光熱水費等は自治会の経費で賄ってもらっているので、私たちは無償ボランティアとして活動しています。

継続の秘訣は助け合い・支え合いに主眼を置く、無理をしない、楽しくする、ボランティアの意味を知ることだと思います。

サロンを介して住民の交流が広がり、日常生活のなかで助け合いの気持ちがいつそう深まることが望まれ、また老若男女の参加を得て、子どもたちのよき社会勉強の場となることが期待されます。

■活動内容

夢の学習は、親子を対象とした学習講座を中心に、年間通してほぼ毎週土曜日に展開しています。誰もが参加できるように、参加費や材料費は無料です。希望に合わせて参加できるように、事前にニーズ調査を実施し、多くの講座を実施してきました。平成30年度は、約70種類の学習講座を年間延べ763回実施。参加者数は約10,500人でした。体験活動を中心に、生活・文化体験、自然体験、社会貢献活動などの講座を実施しています。

ボランティアスタッフの登録者は現在330名を超えています。月ごとの活動では約半数の方が活動しており、昨年度のボランティアの延べ活動人数は2280名でした。

夢の学習はつながりを大切にし、「つないで、つむいで、織って、創って、地域に合った着こなし出来る我が事・丸ごと共生社会のまちづくり」の実現を目指しています。



■団体名	特定非営利活動法人 地域で創る 土曜日夢の学習
■参加者	幼児、小・中学生、一般
■活動拠点 連絡先	甲賀市内 中央公民館を中心に全域で実施 水口町・土山町・甲賀町・甲南町・信楽町 甲賀市水口町本丸1番20号 水口中央公民館内 TEL：0748-70-2349/FAX：0748-70-3180

■活動のきっかけ・実現までの経緯

NPO法人地域で創る土曜日夢の学習は、生涯学習社会・共生社会のまちづくりを目指しています。

親子を中心とした家庭教育支援を中心に、教育格差の是正などの課題解決に挑戦しています。特徴は、高齢者の方が中心になって活動してくださっていることです。

子育て真っ最中の家族の参加、障がいのある子、不登校気味の子、引きこもり気味の高齢者の将棋教室への参加など、0歳児から高齢者の方が集まる居場所づくりを通して、様々な課題を見つけることができました。しかし一番は、高齢者の方のボランティア参加です。2025年・2050年の超高齢社会を豊かに迎える準備をしています。

利用者さんの声

- 本当にこのようなことができるのですか。夢のような話ですね。(H27事前アンケート調査より)
- 運営は大丈夫ですか。参加・材料費を徴収されてはどうですか。出しますよ。(H28年～多数の声)
- ぼくは、夢の学習生活です。(R1年参加シールを貼るときに出た声、4年男児)
- わたしにお手伝いをさせてください。スタッフにしてください。(H30年3年目になる4年女)
- 土曜日に夢の学習があるので助かっています。
- 剣道の講座を開かせてください。
- 子どもが参加させていただいたときは、ほかの講座でもいいのでお手伝いさせてください。(母)

活動者の声

- 動き回る子は、どのように接したらいいのですか。研修会実施(参加31名)
- ノロウイルスの対応についておしえてください。研修会実施(参加40名)
- 参加者が少ないと残念ですが、いつも来ている子が来ないとどうしたのかと思ってしまいます。
- 無料なので、無断で欠席が多いのでは?参加費を徴収したらどうですか。(欠席のない取り組み推進)
- 毎月の自分の生活リズムがとれていいです。準備など大変で、アツという間にその日が来てしまいます。
- 社会貢献活動をしているという自分を感じています。
- 事務局の方は、大変だと思います。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

夢の学習ではコミュニティーチャート(変遷する地域情報)を作成し、事業の展開を図っています。今ある夢の学習の資源が分かるため、教育・福祉事業についての開催の判断ができます。現在のボランティアスタッフの活動状況、4年目になる学習講座の内容の工夫・発展、資金となる助成金、協力関係機関・団体などを元にしながら、重点となる課題に挑戦しています。学習講座はおおよそ70種(同様の種類のものもあります)で、ボランティア講師でみると100種を超えています。夢の学習は、すべての住民の参加が理想です。そのことが、共生社会づくりには必要です。参加者の層を見ながら課題は何かを観察し、様々な行政施策ではできない隙間を埋める活動に専念しているところです。

野洲市

■活動内容

- ・開催日時: 毎週木曜日10時～12時 毎回35人ほど参加
- ・内容: いきいき百歳体操
- ・参加費: 毎月1人100円

参加者は自治会館まで 徒歩・老人車・杖・自転車によって通っています。
参加者みんなでの昼食会を3ヶ月に1回程度開催しています。



■団体名

野田いきいき筋トレ九楽歩（くらぶ）

■参加者

毎回35人程度参加 年齢は60代～90代まで

■活動拠点
連絡先

野田自治会館

問合せ先：野洲市地域包括支援センター
野洲市辻町433番地1 野洲健康福祉センター内
TEL:077-588-2337/FAX:077-586-3668

■活動のきっかけ・実現までの経緯

自治会員5人が介護予防サポーター(いきいき百歳体操サポーター)育成研修会に参加し、代表やお世話係りができて…。野田地域で百歳体操をすることになりました。団体名にある九楽歩(くらぶ)には、90歳まで楽に歩けるようにという願いがこもっています。

田んぼも農業団体に預け、「毎日何をしようかな」という人が参加につながったのかもしれない。

自治会の協力により、自治会館の中古のスクリーンや、イス40脚準備できました。



利用者さんの声

- ・体操の効果で片足立ちができるようになった。
- ・毎週みんなに出会えていっぱい話ができるのがよい。
- ・参加者同士、声掛けあって誘い合っている。
- ・毎週出会って体操したり、話したり、みんなの生きがい、楽しみの場になっている。

活動者の声

- ・茶話会、食事会、クリスマス会などの企画もあります。
- ・手づくりケーキの差し入れ 飴の交換など、茶話会もしています。
- ・お休みされたお家へ様子を見に行ったり、自然な見守り活動に発展しています。
- ・参加者の話はできるだけ傾聴するようにしています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

- ・次世代、次を担う人、男性の担い手の確保が課題です。
- ・老人会のメンバーで 興味がありそうな人を百歳体操に誘ってみたい！
- ・みんなが楽しく、参加できるように工夫したいです。
- ・色分けして、自分の重りの記録票が分かり易いようにしています。

野洲市

■活動内容

毎週月曜日13:00～16:00（祝日は除く）

- ・ いきいき百歳体操、ラジオ体操
月一回はコーヒータイトム 創作活動ほか
- ・ 年二回程度講師、グループによる講演、カラオケ等お楽しみ会
- ・ 子ども会事業支援
- ・ 年1～2回程度 体力測定、市の出前講座に参加
- ・ 忘年会、食事会

共同制作した桜の花



■団体名

久野部東自治会 「サロン ニコニコ会」

■参加者

久野部東自治会員 登録者19名

■活動拠点
連絡先

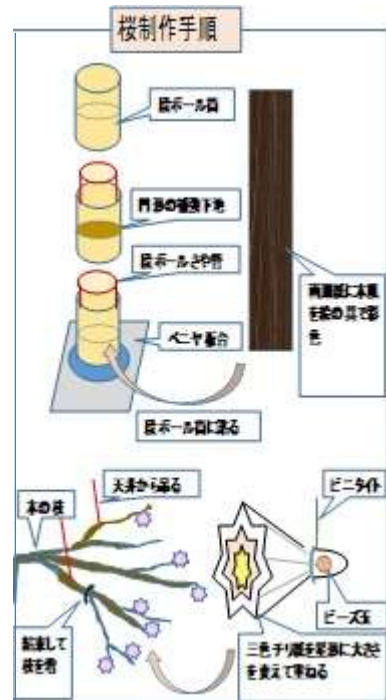
久野部東自治会館

問合せ先：野洲市地域包括支援センター
野洲市辻町433番地1 野洲健康福祉センター内
TEL:077-588-2337/FAX:077-586-3668

■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成23年に野洲市地域包括支援センターで「いきいき百歳体操」を紹介されたことを機に、笑顔でニコニコしながらやれたらと「ニコニコ会」と名をつけ、平成24年6月、5名のメンバーでスタートしました。

その後平成26年から体操をメインに、いつまでも元気で、より仲間とふれあえる時間を楽しむことをめざし、小地域ふれあいサロンとしての活動を開始しました。



利用者さんの声

- ・ 家においてばかりだと体に悪い。顔を見るだけでも出てみようかなと思える。
- ・ サロンを通じて世間話をしながらお互い情報交換ができる。
- ・ 健康は日ごろ気にしているが、体操は一人では難しい。でも、みんなで一緒にやればできる。
- ・ 毎週体操があるのでありがたい。体が軽くなる。
- ・ 今日は〇〇さん来てないなあ、どうしたのかなあと気になる。

活動者の声

- ・ 自治会内における認知度の向上と会員確保が課題です。
- ・ 社協、地域包括などからの情報をうまく活用しながら進めていきたいと思ひます。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

・ 利用者それぞれが小物作りもいいが、一つのものを一緒に作るのも面白いです。この高齢化のなかでやる気をなくさず、なにごとにも面白さを感じて、自主的なサロン活動を進めたいと思ひます。

■活動内容

・ちょこっとカフェ…まちづくりセンターのロビーを利用して毎週月曜日に開かれています。元気な女性スタッフ4名が食事づくりやもてなしにあたっています。

周辺のおとしりやと一緒に来られた孫たち、子育てサロンを終えた親子などが、にぎやかにランチやデザートを食べています。1回あたりの利用客は25名程度、なじみの人が多くいて、おとしりや子どもの声がほどよく混じり、自然な地域共生の場になっています。

・子育てサロン…スタッフは1名ですが、若いママさんたちもボランティアを兼ねているかのように全体を見回しながら動いており、家庭での遊びの延長のような、自然でのびのびとした雰囲気のサロンです。右下の写真は、センター前の中庭で簡易プールをセットして行われた水遊びの様子です。約10組の親子が水しぶきを上げて楽しんでいました。

・その他…地域支え合いとしてのちょこっと手伝い、らくらく勉強会、地域活性化泥りんピックも行われています。



■団体名

下田学区まちづくり協議会

■参加者

のべ150名/月

■活動拠点
連絡先

湖南省下田学区まちづくりセンター
TEL:0748-75-0011
センター長 角島 啓一



■活動のきっかけ・実現までの経緯

- ・平成21年に下田学区の9区をエリアとして下田学区まちづくり協議会が設立されました。
- ・平成24年、下田商店街の一角にあったスーパーの店舗を改修して地域サロン「时空のふれあい館」が協議会事業としてオープンしました。
- ・事業活動の見直しにより、平成28年にセンターロビーを活用してちょこっとカフェをスタートさせました。
- ・平成29年からは「湖南省地域活性化先進モデル事業」の一つとして、週1回開催の本格事業としました。
- ・財源は市からの交付金60万円と、まちづくり協議会からの補助金30万円で子育てサロンやカフェを運営しています。



利用者さんの声

中山（区）から歩いて来た。年？87かな？。二人とも独り暮らし。中山でも月1回のサロンがあり、これはこれで楽しみですが、週1回のこのカフェも待ち遠しい。カレンダーに印を付けて待っておられます。カフェに来て、ランチも楽しみだが、みんなと顔を合わせ、なじみの方としゃべるのが楽しい！あと、老人クラブにも入ってないので、旅行の機会がありません。ここで、ちょっとした旅行なんかがあれば嬉しいな。

活動者の声

カフェスタッフは4名。平均年齢は60代後半。週1回のカフェだが、あっという間にやって来る。メニューを考えて、買い物に行って、当日の調理をするというパターンだが、本当に忙しい。メニューは栄養・バランス・家庭的といったことを大事にしている。食数は1回30食限定としているが、超えた時はスタッフ分を回しています。スタッフのチームワークとしては、買い物・調理・フロア担当を順に回して、同じ苦労、同じ喜びを味わうようにしています。お客さんから来てよかった、おいしかった！と言われるのが嬉しくて、頑張っ続けていきたいと思います。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

- ・地域にはいろんな生活ニーズがいくつもあります。一番必要なことから、まずはやる！活動費などの課題は、やりながら考えます。
- ・取組みは身近なニーズを取り上げ、大々的では無く、こじんまりとした形でおこないます。
- ・自治会や行政、社協や学校などしっかりと連携しておこないます。



■活動内容

・百歳体操

秋桜舎の近所に住まれる、平均84歳の元気なおとしより7名が、毎週月曜日の午前中秋桜舎の一室で、約20分間しっかりと体を動かされます。秋桜舎としては部屋の提供とちょっとしたお手伝いだけで、こすもすクラブ全員が活動者&利用者の自立したグループです。

・おしゃべり会

百歳体操の後、楽しみのおしゃべり会が始まります。今日のおやつはクラブ員も収穫に関わった空中栽培イモを使った大学イモ。番茶をすすりながら、家族やご近所さんのこと、畑や料理の話題等、時には笑い、時にはしんみりと話は尽きません。

・地域貢献活動

2018年1月、恒例の「在宅看取り推進セミナー」で寸劇を演じられました。「誰が何と言おうとここで死ぬ！」～認知症を抱えるおとしよりとご近所さんの泣き笑い～は好評で暖かい拍手をいただきました。

また、昨年の敬老の日には、秋桜舎や近所の応援団との交流会にも数曲の歌を引っ提げて参加されました。我がごとだけでなく、いつまでもまわりの役に立ちたいという気持ちに頭が下がります。

■団体名	こすもすクラブ
■参加者	のべ25名/月
■活動拠点 連絡先	湖南市石部東「秋桜舎」 TEL：0748-77-6780 代表 服部 みち子（秋桜舎 大谷 直子）

■活動のきっかけ・実現までの経緯

- ・秋桜舎(小規模多機能型居宅介護事業所)周辺の元気なおとしよりから「もう一回ぐらい体を動かしたいな」との声が上がりました。秋桜舎も「日頃何かとお世話になってるので、場所ぐらいは提供しなくちゃ」と応え、平成29年7月から「こすもすクラブ」としての活動が始まりました。
- ・おしゃべり会は体操の後、お疲れ様と自然にお茶タイムが始まり、楽しいおしゃべり会につながりました。
- ・そのおしゃべり会の中で出た「私たちも少しは地域の役に立ちたい」という思いと、寸劇の演じ手捜しが出会い、実現しました。



利用者さん・活動者の声

- ・百歳体操で体が楽になる 月曜日が楽しみ、他の用事は入れない。
 - ・みんなで頑張ることがやりがいになっている。
 - ・おしゃべり会も楽しみ。
 - ・寸劇、胸がドキドキしたが楽しかった。
- この年でよくぞセリフが覚えられたと驚いているのと同時に、嬉しかった。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

- ・これからも元気であるために続けたいです。
- ・こすもすクラブ、いい人ばかりで頼りにしています。
- ・何かと支援していただいている秋桜舎さんには感謝です。

高島市



■活動内容

【より処】

毎月第2・4・5水曜日 午後1時～3時
参加費 100円
大正琴に合わせて懐かしい歌を歌いましょう

【今中カフェ】

毎週第3水曜日 午後1時～3時
参加費 100円 今津中学校 美術室

※2019年11月20日～2020年2月までの第3水曜日は、琵琶湖周航の歌資料館2階で13:30～開催します。その間、今津中学校での交流は、お休みです。

■団体名	今津地区ボランティアセンター より処
■参加者	地域住民
■活動拠点 連絡先	高島市今津町弘川760番地6 今津地区ボランティアセンター より処 今津ふくしの会 0740-36-8220 事務局 高島市社会福祉協議会



■活動のきっかけ・実現までの経緯

今津ふくしの会の発足後、2012年から今津町市ヶ崎(今津あいあいタウン地域交流センター)にて、スタッフ7人でサロンを始めました。その後現在の拠点をお借りし、2年になります。

月に一回は今津中学校の美術室で交流活動を行っています。体育祭や文化祭に招待いただくこともあり、今後も中学生との交流を深めたいと思っています。



利用者さんの声

皆さんと歌う事が嬉しいです。
健康のこと、思い出、畑のことなど、いろんな会話が
でき、時間を忘れます。
気軽に参加できるので毎週が楽しみです。
引っ越したばかりで友人がいないので、より処へ行く
ことが元気の素になっています。
ボランティアさんの声かけで安心できます。

活動者の声

参加者が出来ることはお願いして、ボランティアと
参加者との垣根のない活動が起きていると思います。
毎週来てくださると様子がわかりますし、来ない方が
気になります。
皆さんが歌ってイキイキされていると、やってよ
かったと思います。楽しみながら活動しています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

みんなで協力し、誰の負担にもならない気楽さが続けていける秘訣かもしれません。
適度な距離感をもって毎週取り組み、仲間で分担しながら、笑顔が笑顔を呼べるようにできたらと思っています。
この活動の共感者を増やすことが課題です。

高島市

■活動内容

カフェの経営
 営業時間 10:00～16:00
 火曜日・金曜日はお休み
 コーヒー 300円



■団体名	むつみ会 代表者 山本 悦子
■参加者	住民・観光客
■活動拠点 連絡先	高島市朽木市場838 丸八百貨店 TEL・FAX：0740-38-3711



■活動のきっかけ・実現までの経緯

この建物は昭和8年に新築されたもので、アンティークな木造の洋館は、国の有形文化財に登録されており、鯖街道の拠点施設となっています。

現在は市の施設として高島市商工会が指定管理し、平成16年から「むつみ会」が委託を受け管理をしながら、カフェを営業しています。最盛期はランチの提供やお弁当、お惣菜の販売もしていましたが、現在はカフェのみとなっています。

当初のメンバー10人が高齢になりメンバーが減少する中、当番制で営業を続け、地域の人々の憩いの場となっています。



活動者の声

活動ではなく、営業を主として開業しています。ボランティア活動ではありませんが、地域の財産である建物を活用し、地域のためにカフェを続けたいと思っています。毎日楽しみに来られる地域住民の方が数人おられ、自然と居場所になっていて、笑い声が絶えません。また、顔を出されない方の見守りにもつながった例もあります。次世代にどう繋げていくかが大きな課題です。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

現在、まちづくり協力隊で東京から高島市に来られている方の協力を得て、次世代にどう繋げていくかを模索中です。まちの活性化の一助となればとの思いや、カフェに来ていただいている方々の憩いの場を継続することを、私達の生きがいとしています。

子どもとおとなのつながりづくり（居場所づくり）

居場所
子ども食堂

米原市



■活動内容

- ◇子ども食堂運営事業
湖北子ども食堂「Liaison(リエゾン)」
- ◇トワイライトステイ事業・学習支援事業
子どもの夕刻サポート「トワイライトLiaison」
- ◇ひきこもり支援事業・学習支援事業
学校に行けない日の、子どもいきいき応援室「ほわっとLiaison」
- ◇地域のつながり創造事業・心いきいき体験事業
コミュニティカフェ「Liaison」
「ホッとお茶の間 & 健康マーじゃん」
「水彩画を楽しむ会」



■団体名 NPO法人Take-Liaison（ていく りえぞん）

■参加者 おもに湖北湖東地域の住民

■活動拠点
連絡先 米原市長沢1650-2 ウエルカム倉庫「ちこまち」
TEL：090-5249-4328 北居理恵
ree-k@gaia.eonet.ne.jp
<https://www.facebook.com/TakeLiaison>



■活動のきっかけ・実現までの経緯

2014年、元は農機具倉庫として使っていた建物の一部をリフォームし、地域の団らんができる場所にしました。

2016年1月より任意団体リエゾンとして「子ども食堂」を開設し、月に2回実施してきました。3年が経ち、県の社会福祉協議会から受けていた開設助成金の配布が終了するのを控え、今後の存続を考えて、団体を法人化し、「子ども食堂」の運営資金づくりと、活動のさらなる展開をめざすことを決めました。

2019年9月、NPO法人Take-Liaisonを設立し、『子どもとおとなのつながりづくり居場所づくり』をテーマに活動中です。



利用者さんの声

「わたしのすんでいるところには、子ども食堂リエゾンがあります。毎かい楽しくておいしくて楽しみです。」（小学生の作文）

「子どもだけじゃなく、大人もほっとできる“子ども食堂”大切にしていきましょうね。」（保護者さん）

「夕暮れまで一緒に遊び、みんなで囲む食卓は最高だと思います。」（地域の方）

「サイフォンだてコーヒーと手作りスイーツ、気楽に語れる温かい場所。人をつなぐ場所、優しい場所。うれしいな、こんな近くにこんな場所。」（お客様）

「一人で家に居たら寝てるだけ。楽しみができた。」（高齢者さん）

活動者の声

「いい所ができた。ここに来るのが楽しみ。」
「子どもたちの笑顔を見て声をきいて幸せ感じます。」（地域のボランティアスタッフさん）
「ここで過ごす時間が一番好き。」（若者スタッフ）
「毎週のように新しい出会いやふれあいがあって楽しい。」（運営スタッフ）

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

スローガン：「だれもが元気になれるワンダーランド」

●大切にしていること：元気になる方法は人それぞれでいい。生きる喜びや楽しみをもつきっかけになる場所をしたい。気軽に支え合い助け合える関係づくりの一つになりたいと考えています。

●継続に向けて：カフェでの飲食代や体験料はすべて活動への支援金として受け取らせていただきます。活動の様子や報告を「通信」の発行で地域の方々にお知らせし、ご理解とご協力を賜りたいと思います。

日野町

■活動内容

旧の会議所を自分たちでリニューアルして、週1回、おしゃべりを楽しんでいます。女性、男性もたくさん参加しています。

開催日・・・毎週金曜日 13:00～16:00

場 所・・・日野町下駒月 なごみハウス

内 容・・・茶話会

参加費・・・1回100円



■団体名	しあわせカフェ
■参加者	15～20名 地域住民
■活動拠点 連絡先	日野町下駒月 なごみハウス 代表者 中西登紀子 TEL: 0748-52-1219 E-mail: hureai01@rmc.ne.jp

■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成27年5月1日スタート。新しい会議所が出来たことで、旧会議所のとり壊しも念頭に話し合いを重ねた結果、高齢者のおしゃべり会の場として活用することで地域の下承が得られました。地域の皆で旧会議所を改修し、「なごみハウス」として利用可能となり、「しあわせカフェ」がスタートしました。

「しあわせカフェ」参加者の中に腕に覚えのある人が多くおられ、襖の張り替え、壁の修繕、テーブル・椅子の寄付、部屋を飾る写真や花、折り紙など地域の宝が溢れています。

その後、地域内の青年団やスポーツのグループ等も「なごみハウス」を利用しています。



利用者さんの声

- ・農繁期も、金曜日は13:00からここに来るために午前中に仕事を済ませるようにしている。
- ・ここに来ると、いつもの顔ぶれに出会ってホッとする。
- ・たわいもないことを話せるのが楽しい。

活動者の声

- ・今まで何気なく見過ごしていたことに気づけるようになった。
- ・地域の人に気軽に話かけられるようになった。
- ・なによりここに来ることが楽しい。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

・「しあわせカフェ」を始めた当初と同じ顔ぶれが変わらず来てくれていて、それについてはとても嬉しく思っています。新しい人にも来てほしいと考えていますが、なかなか実現は難しいです。

・立ち上げ当初のメンバー3名のうち、2名が参加者兼アドバイザーで若い人と交代することが出来ました。2名が後方支援してくれていることで安心感を持って活動できています。

■活動内容

○日野町の東桜谷地区で、熱意を持った住民有志が集まり、地域づくり、地域の支え合い活動に取り組んでいます。

- ・移動支援事業
「ちょいのり おたすけカゴヤ」
- ・「おしゃべり食堂」



■団体名 東桜谷おしゃべり会

■参加者 おしゃべり会 18名 運転ボランティア 17名
おしゃべり食堂ボランティア 6名

■活動拠点 東桜谷公民館
連絡先 東桜谷おしゃべり会 代表 外山 章
TEL: 0748-52-1219
E-mail: hureai01@rmc.ne.jp

■活動のきっかけ・実現までの経緯

町社協から東桜谷地区の地区社会福祉協議会、地区人権推進協議会へ地域づくりのモデル事業の説明を行い、その後、何度も勉強会や研修、話し合いを重ねた後、「東桜谷おしゃべり会」を立ち上げました。地域住民自らが地域住民のために何が出来るか「ふれ愛・ささえ愛・つなぎ愛」をテーマに動き出しました。

現在、移動支援「ちょいのりおたすけカゴヤ」「おしゃべり食堂」を実施しています。令和元年はさわやか福祉財団主催の全国フォーラムにポスターセッションで参加しました。



利用者さんの声

- 「ちょいのりおたすけカゴヤ」
 - ・片道300円では安くて申し訳ない。
 - ・雨の日とかとても助かります。
- 「おしゃべり食堂」
 - ・認知症予防教室のあとで食堂のある日はとても楽しみにしている。
 - ・300円で季節を感じられるお昼ご飯が食べられて幸せ。300円で足りているのか心配。

活動者の声

- ・待っていてくれる人の期待に添いたい。この地に住み続けてよかったと思ってもらえるものにしたい。
- ・今は元気な自分だが、明日は我が身と思っている。今のうちに今後につながる土台を作り上げたい。
- ・高齢者だけでなく、若い人や子どもさんにも食堂に足を運んでもらいたい。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

- ・今までもこれからも、ここに住んでいて良かったと思える地域に皆でしていきたいです。
- ・元気高齢者が多い、それがわが地域の自慢。
- ・公民館に子どもから高齢者まで沢山来てくれるような食堂にしていきたいです。
- ・活動を広げていきたいです。

日野町

■活動内容

地域の公民館を活用し、人と人がふれあう場として「ゆかいな寺子屋」を開催しています。

毎週水曜日 金曜日 13:00～ 2時間程度
町内各種ボランティア団体の協力で様々なメニューで楽しんでいます。
(カラオケ、将棋、手作り小物、頭の体操ゲーム等)



■団体名	ゆかいな寺子屋
■参加者	日野町住民
■活動拠点 連絡先	日野公民館 TEL: 0748-52-1219 E-mail: hureai01@rnc.ne.jp

■活動のきっかけ・実現までの経緯

日野地区社会福祉協議会で、高齢者の健康寿命を延ばす取り組みが何かできないのかを相談していました。

その中で、人と人とのふれあいを多くし、仲間と一緒に余暇時間を楽しむことが大切ということで、「ゆかいな寺子屋」と名前を付けて商業施設の空きスペースを使い、平成28年4月活動スタート。当時は週4日、毎日日替わりで町内各ボランティアグループの力を借りて実施。平成29年2月からは日野公民館に場所を移し、水・金13:00～2時間程度開催しています。カラオケや絵手紙、小物作り、将棋、健康マージャン等で楽しい時間を共有しています。

日野町内のどこからでも参加できます。



利用者さんの声

- 気軽に参加出来る。
- 色んなメニューがあり、自分が参加したい日を選んで来ている。
- 孫も一緒に参加しても楽しいのが良い。
- 近所なので買物のついでに参加している。
- 場所が変わり、開催回数も減ったのが嬉しい。

活動者の声

- 活動場所は日野地区だが、参加する人は、町内どの地域からの参加もOKとしている。
- 町内の色々なボランティアグループの力を借りて開いている。日替わりなので色々な人が来てくれるのが嬉しい。
- 商業施設が移転し、活動場所が公民館に移り、回数が減ったが、変わらず参加してくれる人がいることが励み。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

- いち地域に限定せず、町内色々な地区から参加してもらいたいです。
- 町内各ボランティア団体の協力があり、様々なメニューの中から参加したいものを選べます。

竜王町



■活動内容

- ・主に60歳以上の男性を対象に、月に一度、土曜か日曜の夜に、会費1000円で、作った野菜やお酒、釣った魚などを持ち寄り、いろんな話題でみんなでワイワイ交流、支え合いのベースをつくっています。
- ・交流している中で、地域に役立っていこうという機運が生まれ、地域の人たちの困りごとや要望に対して、自分たちでできることをやってみようと活動もしています。
- ・これまでの実績として、自治会館のクーラーそうじ、自治会館や個人宅の草刈、大型ごみの地域一斉回収時の運搬ボランティア（一人では運べない家庭などに対して）、自治会館駐車場でのかまどベンチづくりなど。年に一回の地域区民フェスティバルにも有志が協力し出店、さんまや焼き鳥を焼きながら、その活動を広報しています。

■団体名	居酒屋おいで
■参加者	主に60歳以上の男性 まかないサポート役の女性たち
■活動拠点 連絡先	西川自治会館 世話人 森下幸男（TEL:080-5764-6806）

■活動のきっかけ・実現までの経緯

‘地域の福祉’の場面の担い手は女性がほとんどで、男性は自治会の役でもなければ自発的には出てきません。それはこれまでの‘福祉’が主におもてなし的なものであったから。これからのますますの高齢化や地域の支え合いを考えたときに、男性の活躍の場は多いです。また、自分自身が地域で交流を持っているかどうか、お互い様の助け合いのベースにもなります。

このような思いを持って周りを見回すと、定年退職後や一人暮らしの男性など、あらためて地域での交流を結びなおしたい人たちがいます。近所にたまり場になるような飲食店もありません。みんながお互い様の気持ちで、気楽に出てこれる場を作れたら…このような思いは女性から発案。これに共鳴した有志で「居酒屋おいで」を始めました。



利用者さんの声

・大型ゴミの回収では、忙しくて持っていけなかった、軽トラックもなく運搬できなかったところ、とても助かったという声をいただいた。

※居酒屋の参加者の声としては同時に活動者でもあるため右に掲載。

活動者の声

- ・心置きなく話す機会もあまりなく疎遠になりがちだけれど、コミュニケーションがとれるようになった。
- ・地域内の新興住宅地にいると旧集落の人との接点が作りづらかったが、この集まりで親しみが深まり、老人クラブの役を担うなど積極的に関わるようになった。
- ・自治会の役割も回ってくる中で、孤立することなく関わっていける。
- ・毎回の持ち寄りも楽しみだし、次回の集まりが楽しみだ。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

- ・地域の支え合いの元になる交流は「出てきて下さい」というアプローチではなく、「行きたくなるような」場面作りが大切。
- ・特に男性は女性と違って、個人で地域活動するでもなく、仲間づくりが進みにくいです。楽しみながら地域の人と仲間づくりをするところから始めていけるようにしています。それには「食べる時間の共有」は最適。一人ではなくみんなでワイワイ食べるのは楽しいです。自分たちで場をつくるというところを大切に、後片付けもきっちり。また女性の協力や段取り力は欠かせません。ともに楽しむ方向で。
- ・酒を飲まなくても、いろいろな話題が行き交うので十分楽しめています。酒はきっかけであって目的ではありません。
- ・サポートをしている女性たちから地域の話題なども提供し、力を出そうという雰囲気づくりをしています。

甲良町



■活動内容

- 開店日: 毎月第1土曜日 13:30~17:30 (冬季は16:30まで)
- 場所: 正楽寺公民館
- 活動目的: 世代間交流
- 活動内容: 居場所の提供 (高齢者・子どものふれあい等)
世代間の交流 (若い世代も含む意見交換の場 等)
喫茶・居酒屋 (飲み物、手作りおやつ、アルコール等の提供)
ワークショップ等のイベントの開催

広報活動として、「カフェRだより」を月1回発行。利用者の便を図り、利用登録をされた方に送迎活動 (利用料無料) も行っています。
飲み物 50円、食べ物 100円、アルコール類 100~200円

■団体名	正楽寺コミュニティサロン「カフェR」 代表者 深田 一平
■参加者	地域住民
■活動拠点 連絡先	犬上郡甲良町正楽寺 TEL: 0749-38-1362 mail: kskt99428@nike.eonet.ne.jp

えんがわカフェ



■活動のきっかけ・実現までの経緯

正楽寺は小さな集落ですが、住民同士の関係は希薄になりつつあり、今こそお互いさまの気持ちで助け合う仕組み作りが必要と考えました。公助のみに頼るのではなく、地区の自助・互助力を養い、共に支え合える生活をするには、日頃からの交流や意見交換できる場が必要であるとの思いで始めました。

地域づくりの拠点として公民館の在り方を考え、もっと気軽に利用できる公民館として、ここから世代間交流を進め、若者にも郷づくりに積極的に参画してもらい、これからの正楽寺を考えて行く場を作ろうと、公民館をカフェとして利用する案が採用されました。



利用者さんの声

「ケーキとか作るの大変やから、無うてもええで、月2回くらい開けてほしいなあ」と開店を楽しみにされている声を頂いています。
当初あった懸念の声も、今では盛況を喜んでくださる声に変わり、大変励みになっています。

活動者の声

地域で支えあって将来に備えるためには、みんなが共通意識を持ち、行動につなげていく。
そうなるために「とにかくやろうよ」をいくつも見つけて、焦らず、輪を広げる努力をする、そんな思いを持って活動しています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

カフェRは、誰もが気軽に立ち寄り、何気ない会話をお茶を飲みながら楽しめる場。
カフェRの「R」は、[relaxation] [relax] [recreation] [refresh]などの頭文字です。ここに住民が集まり、くつろぎ、癒され、遊び、元気になって欲しい。世代を超えて交流する場になって欲しいという思いが込められています。
現在は昼間のカフェだけでなく、現役の世代が気軽に集まれるよう「居酒屋R」をオープン。お酒を飲みながら、若い世代が肩の力を抜いて現状への思いや将来の話ができる場も開催しています。
開設準備には町事業のまちづくり交付金を利用しました。現在は、町の活動補助金、売り上げ、ボランティア補助金などを運営資金としています。

生活支援・外出支援などの 活動を実施している事例

湖南省



■活動内容

※活動日:平日 月曜日から金曜日 9時から17時

*申し込みは、2日前までに申し込む。

※内容:買い物、通院付き添い支援、ゴミだし、お話相手、お手伝いなど

※利用料金: *ゴミだし 1回50円

*お手伝い お話相手 1時間200円

*買い物 通院付き添い支援(二人対応) 1回300円(往復600円)

■団体名	水戸学区まちづくり協議会
■参加者	会員 24名
■活動拠点 連絡先	湖南省市民学習交流センター TEL:0748-75-8190



■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成28年7月に「高齢者が暮らしやすい町づくりの為のアンケート」を実施し、多くの方がささえあい活動が必要と回答したことをきっかけに、東近江市「ちょこっとサポート」などの研修を開始。

平成30年4月より車両を使わないお手伝いから始め、湖南省へ車両の確保への交渉を始めました。

平成31年4月からは湖南省より試行運転で貸与でき、付き添い支援を開始しています。



利用者さんの声

- ・待ってましたとすぐに申し込みました。
- ・家からスーパーや病院の往復は、バスを降りて坂を上らなくてはいけないので、助かります。
- ・腰痛で掃除機が使い辛く、掃除を手伝ってもらい助かりました。
- ・よく利用しますが、いろいろな方が来てくれるので、今日は誰かなと楽しみになってます。

活動者の声

- ・地域に必要な活動と思って頑張っている。
- ・免許返納後のお出かけ方法のルート作りをしている。
- ・今はささえ側にいるが、いつかは利用する側になっていくので、ずっと続くように整えていきたい。
- ・地域の知らなかった方と同乗して、知り合いが増えました。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

スタッフの負担にならないよう、月に1~2回程度の当番制にしています。しかし、支える側も60代以上の人が多く、今後の人員確保が大きな課題となっています。

警察による危険予知トレーニングなどの講習をして、安全運転を心がけています。これからの高齢化に向けて、長く続いてほしいと願っています。

東近江市



■活動内容

永源寺地区を活動範囲に、暮らしの中で困っていること、「ちょっとお手伝いしてほしいな…」と思う事のお手伝いをします。

●具体的な活動

- ・見守りを兼ねた話相手
- ・ゴミ出し
- ・送迎(買い物、通院、サロンなど)
- ・電球交換 など

※月1回、サポーターの情報交換として定例会を開催しています。

■団体名	生活支援サポーター絆
■参加者	生活支援サポーター絆 サポーター
■活動拠点 連絡先	東近江市社会福祉協議会 永源寺事務所 東近江市永源寺高野町437番地 TEL:0748-27-2066



■活動のきっかけ・実現までの経緯

お互いさまで「助けて！」と言い合えるまちを目指して、平成23年に、東近江市社会福祉協議会主催の「生活支援サポーター養成講座」を開催。養成講座を受講したメンバーが、暮らしの中での困りごとや地域の現状を話し合う中で、「助けて」ともっと気軽に言い合える地域になれば…」という意見がたくさん出されました。

そこで、講座の気づきや思いを実際の活動につなげるため、話し合う機会として、懇談会を9回にわたり開催。懇談会の中で、活動のイメージや大事にしたいことを共有し、平成24年1月に「生活支援サポーター絆」を結成しました。



利用者さんの声

★サポーターさんと、昔の話や風習などの話もでき、絆さんが来てくれることを楽しみにしています。

★えんがわ喫茶の送迎を絆でお願いしています。サポーターや同じく絆を利用している人との道中での会話はもちろんですが、えんがわ喫茶に行ってお友達もできました。

活動者の声

★サポーター自身の「生きがい活動」になっている。利用者から、「ありがとう」と言ってもらえることや頼ってもらえること、サポーターが知らなかった知識や情報を教えてもらえるなど、サポーター自身も楽しみながら活動を行っています。

★やっぱり、活動で悩むこともありますが、サポーターみんなで相談して乗り越えています。サポーター同士のつながりも大事！です。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

・家族と同居していても、生活リズムが合わないなど、寂しさを抱えている方もおられます。今後も、暮らしにくさだけでなく、「寂しさ」に寄り添っていきたいと思います。また、買い物や通院のように暮らしに必要なことだけでなく、サロンなどの送迎、散歩など、その人の暮らしを豊かにするお手伝いをします。

・家族、親類、ご近所さんなど、その人が培ってきた関係を崩さず、介護サービス・地域とのつながりの“すきまを埋める”活動を行います。

■活動内容

「ちょっと助けてほしいなあ」と「私にできることなら」がつながって、日々の暮らしをお手伝いする“たすけあい活動”です。特に、「困っているけど、頼む人がいない」という方々のお手伝いをしています。

お手伝いの内容としては、話し相手・ゴミ出し・おでかけ支援(通院・買い物・銀行・外出など)・家の掃除や片付けなど。

基準や対象は決めず、オーダーメイドで一人ひとりの困りごとや、さみしさに寄り添う活動をしています。



■団体名

たすけあい中野

■参加者

たすけあい中野 生活支援サポーター

■活動拠点
連絡先

中野コミュニティセンター（東近江市中野町781-5）
中野ヴィレッジハウス（東近江市東中野町5-21）

TEL:090-2044-3352（相談専用電話）

■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成25年度に東近江市社協が開催した『生活支援サポーター養成講座』を受講したメンバーで、講座後に『生活支援サポーター懇談会』を開催。「中野地区にどんな困りごとがあって、自分たちには何ができるのか」を、3歩進んで2歩下がりながら、ゆっくり、活動のイメージを共有してきました。

そして、「一人では何もできない、仲間と話し合い、助け合いながら活動していこう」と、平成28年1月16日に『たすけあい中野』を設立しました。

設立にあたっては、中野地区まちづくり協議会、中野地区社会福祉協議会、中野地区自治会連合会、東近江市社会福祉協議会などにご支援いただき、活動をスタートしました。



利用者さんの声

- ・お手伝いをしてもらっていること以外にも「困ったことがあれば、連絡してください」と言ってもらえるのが心強くありがたいです。
- ・送迎をお願いしていますが、車中でのおしゃべりも楽しいです。
- ・みなさん親切で、ちょっとしたことだけど、相談すると気持ちが楽になります。

活動者の声

- ・「ありがとう」と言ってもらえることがうれしく、活動の励みになっています。
- ・自分のできることが、暮らしのお役に立てることが自分の充実感や満足感につながっています。
- ・気になっていた人へ声かけができるようになり、仲間と知恵を出し合えば何とかなる感じています。
- ・将来、自分が助けてもらう側になった時のために、この活動を続けていきたいです。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

『たすけあい中野』が何もかもするのではなく、その人がこれまで培われてきた家族や近隣住民のつながりを切らないことを心がけています。また、無理し過ぎないように、たすけあい中野ではできないこと、他の支援の方が良いことは、本人の状況を確認した上でつなぐようにしています。暮らしの困りごとを解決するだけでなく、その方の暮らしがより豊かになることを大事にしています。

住民同士が「お互いさんでたすけあう心」を広げて、新たな仲間を増やしていきたいです。

東近江市



■活動内容

誰もが安心して暮らし、気軽に「助けて」と言えるまちを目指して活動しています。ふだんの暮らしの中での“困った”の解決にむけてお手伝いします。

○主なサポート内容

話し相手、散歩の付き添い、ゴミ出し、草刈り、部屋掃除、家具の移動・運び出し、買い物の補助、薬もらい…など、ケース毎に相談・検討し対応しています。

○サポーター活動協力金等

1時間以内の活動は、100円×活動したサポーター人数の金額をお願いします。1時間を超える場合、30分ごとに50円×活動サポーター数の追金をお願いします。その他活動に必要な資機材等の費用は、依頼者に実費を負担いただきます。

○懇談会

サポーターが楽しく活動を続けていけるように、毎月第4火曜日に開催し、継続・新規依頼の調整や、活動しての思いなどをメンバー間で共有しています。

■団体名

ちょこっとサポートのとがわ

■参加者

ちょこっとサポートのとがわサポーター（能登川地区住民）

■活動拠点
連絡先

東近江市社会福祉協議会 能登川事務所
住所：東近江市猪子町124番地（能登川保健センター内）
TEL：0748-42-8703
IP：050-5802-2989

■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成25年の「生活支援サポーター養成講座」の受講者が、能登川地区で身近な支え合いができないかと話し合ったのがきっかけです。お互いの活動に対する思いや、目標などの目線合わせをしたり、能登川地区の困りごとを福祉専門職や民生委員などから聞き、それに対して自分たちにできることを話し合いました。

何度も話し合いを重ね、自分たちが無理なく楽しんですることを大切に、暮らしのちょっとした困りごとのお手伝いをする「ちょこっとサポートのとがわ」の活動を、平成27年よりスタートしました。当初は4人のメンバーでしたが、知人などへの声かけにより増減があり、現在は登録メンバー13名で活動しています。

ケアマネジャーやホームヘルパーからの依頼が多く、他にも市の地域包括支援センター、民生委員・児童委員、依頼者本人から相談を持ち込まれることもあります。



利用者さんの声

■本人

- ・「ありがとう」
- ・「手伝ってもらえて、嬉しかった」
- ・「また来てね」
- ・「もう帰るの？寂しい。もう少し一緒に話をしたい」
- ・「生姜を植えるのを手伝ってもらえて助かった。何もお礼できないが、ちょっとしたお菓子だけでももらってほしい」

■本人家族（散歩・お話し相手）

- ・「ありがとうございます。少しでも気が休まるので助かります」

活動者の声

- ・依頼者からの感謝を表す言葉や笑顔が、活動者の喜びや生きがいにつながっており「自分でも役に立っているんだ」との活動者自身が安心感や充実感を感じられるところは、大きいと思います。
- ・様々な生活実態があることを知って、経験と知識を積むことができています。
- ・定期的な継続事業では「変わらず元気にされているかな…」や「またあの笑顔に会える…」と楽しみの感情が湧いてきます。
- ・利用者の生活状態の変化にも気づけるので、利用者の見守りにもつながっていると思います。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

- ・一人でもメンバーを増やしていきたいです。
- ・通院や買い物への送迎について、当グループでは、交通事故等の懸念から活動を見合わせていますが、いずれ実現につながっていきたくと思っています。
- ・ボランティアである以上無理や背伸びをせず、できないことはできないと伝え、できることは「この程度ですがよろしいですか？」の了解を求めています。活動の判断をする上で、必要に応じて本人と面談を行っています。また、自分たちでは対応できないことについては、行政や民生委員・児童委員、自治会役員などへもつないでいます。
- ・月に1回の懇談会で、活動しての悩みやまずかったこと、良かったことなどをメンバー間で共有し、次の活動につながるように心がけています。

東近江市



■活動内容

御園地区のみなさんの「困っているから、助けて」という声に“ちょこっと”何かできないだろうか、という思いで活動している住民の支え合いグループです。

●具体的な活動

- ・見守りをかねた話し相手
- ・買い物の付き添い
- ・通院等の送迎
- ・一時的な子守り
- ・その他(ゴミ出し、病院の予約、草刈り、掃除)

※月1回、サポーターの情報を共有する懇談会を開催しています。

■団体名	ちょこっとサポートみその
■参加者	ちょこっとサポートみその サポーター
■活動拠点 連絡先	御園コミュニティセンター(東近江市五智町351番地2) TEL:090-6238-6801(相談専用電話)



■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成24年度、東近江市社会福祉協議会が主催する「生活支援サポーター養成講座」を受講したことがきっかけです。

受講後「何かしたい」という思いを持った受講者同士が、講座での気づきや、自分たちの思いを話し合う『サポーター懇談会』を開催。13回の懇談会で話し合いを重ね「一人ではできないことも仲間と一緒に活動ができそう」、「とにかく何かしたい!」という気持ちを「カタチにしたい」という思いから、平成26年6月1日に『生活支援サポーターちょこっとサポートみその』を結成しました。



利用者さんの声

- ・皆さんとても親切で、気軽に相談することができます。
- ・サポーターが家に来てくれると安心します。話したいことをゆっくり話すことができるので、来てくれる日を楽しみにしています。
- ・一緒に買い物に行って、物を見て買い物ができることが嬉しいです。

活動者の声

- ・活動を重ねていくうちに利用者と関係が深まっていき、色々な話を聞かせてもらえることが嬉しい。
- ・無理をせずに“ちょこっと”自分にできることを活動することが良い。“ありがとう”という言葉が自分の生きがいにもなっています。
- ・楽しく活動することを一番大切にしています。不安なことがあったら、定例会でメンバーに聞いてもらって、また頑張ろうと思えます。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

楽しく、気楽で、元気に活動することをグループのメンバーが大切にしています。困りごとをサポーターが全て解決するのではなく、自分たちにできる無理のない範囲で活動しています。一人では抱え込まずに、悩んだこと、困ったことがあれば、毎月の懇談会で話し合いをして、お互いの元気を分けあいます。

利用者からの「ありがとう」の一言をもらえるだけで、また頑張ることができます。「してあげる」ではなく、サポーターも利用者からたくさんの気持ちをもらうことができます。

少しでも活動が広がって、“ちょこっと”何かしたいという同じ気持ちを持った仲間を増やしていきたいです。

米原市



■活動内容

社会福祉法人ひだまりでは「買い物生活リハビリ事業」を実施しています。利用の申し出をされた方には、まずご自宅へ担当者が訪問し、時間帯や料金などの事業内容を説明し、意向を確認します。

利用当日は、利用者宅を巡回し、スーパーの一角にお借りしたスペースで、交流や相談とともに健康チェックと健康体操、そして店内での買い物、最後に活動の振り返りをして自宅へと送迎します。買い物中は、スタッフが見守りしますが、できるだけ自由気ままに買い物をしていただけるよう、適度な距離感を保つように心がけています。私たちが買い物って好きにしたいですよ(^_^)でも、困った時や探し物がある時は、いつでも対応できるようにしています。

最近では利用者が自宅で趣味を活かした作品を手作りし、持参され、他の利用者やボランティアにプレゼントして下さるなど、買い物以外にも活動の幅が広がっています。

■団体名	社会福祉法人 ひだまり
■参加者	独居世帯、老老世帯で買い物にお困りの地域の方
■活動拠点 連絡先	滋賀県米原市本郷603-1 TEL:0749-55-3131 (本部) 080-4170-3997 (担当者携帯)

■活動のきっかけ・実現までの経緯

私たちの住む米原市は、バスやタクシーなどの公共交通機関が不十分で、車の運転が不安でも車に乗らなければ生活が成り立ちません。また、外出が困難な独り暮らしの高齢者は年々増加しています。

ひだまりでは、2年前から行政の支援を得て、「買い物生活リハビリ事業」に取り組み、今年度からは自主事業として、高齢者の方が住み慣れた地域で暮らしていくために、高齢者の日常的な生活に係わる「移動外出」にプラス、買い物弱者の生活を支える「買物支援」を加えたものに取り組んでいます。



利用者さんの声

「ここに来ると、みんなのパワーをもらえる。」
 「毎週木曜日が楽しみ。」
 「今日はこの広告見て来た。」
 「先週あんたが休んで、心配してたんやで。」
 利用者は事前に買い物メモを持って来られます。これも、立派な脳トレですよ。
 また、買い物だけが目的ではなく、利用者さん同士の関係も構築されており、会ってしゃべることも大事な目的になっています。

活動者の声

開設当時は、「買い物」と「介護予防のための健康体操」が目的でしたが、利用される方が増えていき、次第に利用者同士の関係ができていくにつれ、利用される目的がそれだけではない事がわかってきました。1週間ぶりに会う「友人」に近況を報告したり、今日買う予定の物を相談したり、時には体調の不安を話してみたり…。そんな関係が目の前でできていくお手伝いができ、私も毎週元気をもらっています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

これまでの活動の成果としては、閉じこもりがちな高齢者をスーパーへ送迎し、自分自身で買いたい商品、食べたい物を購入することで、生活機能が向上しています。また、スーパーに来店されたお客様が私たちの活動を見て、“これは、何をされているんですか？”と事業のお問い合わせをして下さるようになり、奥様が買い物中、旦那様が体操に飛び入り参加されることもありました。

今後は買い物支援、介護予防だけでなく、地域の活動拠点としての「居場所」であったり、車に乗れなくなった人、車を手放した人が、安心・安全に買い物に利用できる移動手段となることを期待しています。

また、この活動には地域ボランティアさんの協力が不可欠で、現在は5人の方にサポートいただいています。さりげない関わりや地元の話など、利用者さんも大変喜ばれています。

多文化共生・エコ活動などの活動を実施している事例

東近江市



■活動内容

平成23年の夏に、おうみサンバ・パーカッション・ワークショップを有志で結成、ことうへムスロイド村、愛荘町体育館にて年3回のサンバ音楽を用いた交流会を開催しています。サンバ音楽の指導には大阪のパーカッショングループのヂスペルタドールさんをお招きして、楽器作り、サンバリズム&ダンスでの音楽交流、そしてお互いの食文化を楽しむ形で行っています。

私たちの合言葉は、言葉が通じなくてもサンバ音楽があれば大丈夫！ワークショップには毎回60名前後の参加者が集い、ポルトガル語、スペイン語、英語、日本語が混じるなか、言葉や文化が違って、サンバ音楽があれば、心は一つになれることを実感することができています。

■団体名

おうみサンバ・パーカッション・ワークショップ

■参加者

ブラジル人学校の生徒・父兄さん、地域にお住まいの日本人

■活動拠点
連絡先

会長：学校法人 司学館 司学館高等学校 校長 小梶猛
事務局：東近江市下中野町637番地 NPO法人加築内
おうみサンバ・パーカッション・ワークショップ 楠神渉
TEL:0749-46-0608 E-Mail:karaku@sand.ocn.ne.jp



■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成22年の夏、ドキュメンタリー映画監督の栗原奈名子さんが、コレジオ・サンタナ学園(ブラジル人学校)の生徒さんに、生のサンバ音楽に触れさせてあげたいとサンバ隊を招いてのサンバ・ワークショップを東近江市で開催。1回だけの企画でしたが、東近江市内に36か国もの外国人がご住まいであること、又ブラジル学校サンタ学園の生徒さんの半数が学費を払えずに運営に困られていること、そして日本人の友人を持たないサンタ学園の生徒さんが社会に出た時に、犯罪に巻き込まれてしまうことがあることなどを知ることができました。

そこで、当日集まった地元のメンバー4名で相談を行い、サンバ音楽を用いたワークショップを今後も継続開催して、子供たち同士が触れ合え、又サンタ学園さんの現状を知って頂く機会をつくることにしました。



利用者さんの声

・ブラジル音楽のサンバ、またシュハスコなどの食文化を知ることができました。言葉や文化が違って、同じ地域に住む仲間として、ともに考え行動できればと思います。

・サンバ・ワークショップでは、コレジオ・サンタナ学園の校長先生より、学びたくても学べない子どもたちがいること、又社会にでて正規職に就けず、雇用の調整弁となってしまうことがあるなど、現状の問題点等を知ることができました。

活動者の声

・言葉が通じなくてもサンバ音楽があれば大丈夫！を合言葉にワークショップを開催しています。子どもたちは順応性が高く、サンバ音楽を通して、易々と言葉、文化の壁を越えています。東近江市には36か国の方々ご住まい、このような活動を通して、多文化が共生できる地域となればと思っています。

・市内外の様々なイベントでステージ発表の機会を頂きともうれしく感じています。京都サンカF.C京極スタジアムでの公式戦では、大舞台上でサンバ音楽&ダンスを披露することができました。子どもたちにとって、努力は報われることを体験することができ、大きな自信に繋がったのではと思っています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

活動を始めて8年目。地域の大凧祭り、二五八祭り、第九とのコラボ、特別養護老人ホームでの発表などにお誘いして頂くなど、活動の輪が広がり、外国人学校が置かれている現状なども地域の方々から知ることができたのではないかと思います。又地域の企業様の協賛も得て、子どもたちが描いたお揃いのTシャツを着て活動が行えるようになりました。今後は地域でサンバ隊を結成し、パレードに参加するなど、より多くの方に参加して頂き、言葉や文化が違って、お互いを認め合える、多文化共生社会の実現に向けて取り組んでいきたいと思っています。

■活動内容

サンバ音楽を用いた多文化交流会のお手伝いをさせて頂く中で、学校運営に困られているコレジオ・サンタナ学園さんの現状を地域の方に知って頂けないかと、そして実際に何らかの支援ができないかと、平成23年2月より当法人より地域の事業所などに働きかけて古紙回収・換金を行い、換金代を学校の運営に役立てて頂けるようにと応援活動を開始しました。

地域のイベントやSNSで近隣の医療・介護・障がい施設・住民さんへ呼びかけを行い古紙の回収・換金活動を行っています。活動方法は、古紙を事業所等に保管して頂き、月に1回、回収に伺ったり、当事業所に随時届けて頂いている古紙を換金して、換金代をコレジオ・サンタナ学園へお届けしています。



■団体名	特定非営利活動法人加楽 古紙回収活動 (for ブラジル学校)
■参加者	地域の医療・高齢・障害福祉事業所、一般企業、住民さん
■活動拠点 連絡先	東近江市を中心とした近隣市町内 特定非営利活動法人加楽 東近江市下中野町637番地 担当 楠神渉、野沢郁子 TEL:0749-46-0608 E-Mail:karaku@sand.ocn.ne.jp



■活動のきっかけ・実現までの経緯

東近江市内の多文化音楽交流会 おうみサンバ・パーカッション・ワークショップでブラジル学校サンタ学園の校長先生のお話を聞かせて頂き、生徒さんの半数が学費を払えずに運営に困られていること、そして日本人の友人を持たないサンタ学園の生徒さんが社会に出た時に、犯罪に巻き込まれてしまうことがあることなどを知ることができ、現状を地域の方に知って頂けないかと、そして実際に何らかの支援ができないかと、活動を始めました。

当初は換金額が1,000円程度でしたが、活動に協力して頂く方々が30事業所・住民さんにまで増えて、月1回10,000円程度を学校に届けることができるようになり、学校のガス代金、水道料金の一部に使って頂けており、嬉しく感じています。



利用者さんの声

・古紙回収活動を通じて、東近江市に36か国の方々がお住まいであること、又近隣にブラジル学校が2つもあることなどを知ることができました。ダンボールなど、ほんの少しでも役立てて頂ければと思います。

・最初は古紙を引き取ってくれるから便利、程度に思っていたのですが、ブラジル学校さんの運営の状況などを知ることができ、今後も継続して協力していければと思っています。

活動者の声

・活動をさせて頂いていて、嬉しいこととして、古紙回収時に自宅では食べきれないからと、学校に「食べ助け」で届けて頂きたいと、お米やお野菜を一緒にご準備して頂いている時もあることです。寄付ではなく、「食べ助け」という言葉、田舎ならではの優しい言葉だなんて思って感じています。もう一つ、嬉しいことがあり、活動を行うにあたって車両を無償提供して頂いている事業所があること、又当日の古紙回収作業を近隣の障がい者施設に通う方が、自主的にお手伝いしてくださっていることです。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

活動を始めて7年目、30事業所・住民さんにまで活動の輪が広がり、とても嬉しく感じています。又寄付ではなく、「食べ助け」という言葉、田舎ならではの優しい言葉も知ることができ、活動に参加される方々の温かい気持ちに触れています。この活動は月1回の活動ですが、無理なく継続は力なりを合言葉に、活動を続け、ブラジル学校の現状をより多くの方々に知って頂き、地域課題の一つとして、国籍に関係なく、子どもたちの未来について、多文化共生の視点からも共に考えることができる地域を目指していきたいと思っています。

活動助成を実施している 事例

■活動内容

- ・活動、ボランティア団体への助成金の支援
平成24年～平成30年 助成件数 46件
- ・住みやすいまちづくり先進地研修（毎年1回）
- ・おたがいさん市民フォーラム withおでかけ市長室（毎年1回）
- ・おたがいさん市民ネットワーク通信の発行（年1回発行）



■団体名

おたがいさんネットワーク
代表 高木慈恵

■参加者

会員 平成30年度 個人25名 団体5

■活動拠点
連絡先

守山市守山町168-1
社会福祉法人 滋賀県障害児協会湖南ホームタウン
TEL：077-514-1685



■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成24年に立上げ守山市またはその周辺において開拓的、先駆的に「まちづくり」や「地域貢献」に関わるような活動に取り組んでいる個人、団体を応援することを主旨としています。



利用者さんの声

・子育て支援活動

助成金で、毛糸や布地やママゴトなど自然素材の玩具を中心に購入させて頂きました。温かい心のこもった援助にお礼を申し上げます。

・認知症予防教室

85歳以上の4人に一人が認知症または予備軍といわれています。生活習慣を変えることで脳の神経細胞が活性化し予防することができるそうです。

昨年6月より自治会館で楽しく体を動かし筋肉を鍛える体操、むくみや体の冷えを改善する体操などを行っています。「曲がらなかった膝が曲がるようになった」と聞き喜んでいきます。

活動者の声

高齢者も障がい者も生活困窮者への支援も、困難の種別にこだわらず、地域社会の課題としてとらえて包括的に取り組むあり方。コミュニティの再生にこそ、地域社会再構築のポイントがあると学びました。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

私たちの理念は「福祉のまちづくり」。この理念を具体化するために、地域貢献プログラム(おたがいさんネットワーク)を設立しました。これは地域社会において、開拓的、先駆的に取り組んでいる市民活動・ボランティア団体などへの支援を目的とした独自のネットワークシステムです。会員の皆様や市民のみなさんの寄付金・アイデア・労力などを、市民活動やボランティア団体へお届けします。そのような取り組みを通じて「福祉のまちづくり」に貢献していきます。